

氏名	木村五郎
学位(専攻分野)	博士(医学)
学位授与番号	博乙第2502号
学位授与の日付	平成4年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	気管支喘息におけるinterferon- γ (IFN- γ) 産生能に関する研究 第1編 気管支喘息の各種病態におけるIFN- γ 産生能の検討 第2編 気管支喘息におけるIFN- γ 産生能と各種リンパ球機能との比較検討
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 辻 孝夫 教授 太田 善介

学位論文内容の要旨

IFN- γ はT-cell由来のリンホカインであり、IgE抗体産生の抑制、ロイコトリエン産生の促進などの作用が知られており気管支喘息発作のアレルギー反応においても重要な役割を果たすと考えられる。そこで今回の気管支喘息患者において、カンジダまたはダニ抗原刺激によるPBMCからのIFN- γ 産生能を検討し、第1編では、カンジダ、ダニのどちらの抗原刺激においても、非アトピー型の重症喘息群においてIFN- γ 産生能が高く、またカンジダ抗原吸入誘発試験においてLAR（遅発型気道反応）を示す群は、無反応群に比してIFN- γ 産生能が高い事を示した。第2編ではカンジダ抗原刺激においてIFN- γ 産生能が、抗原特異的IgG1抗体、リンパ球幼若化反応、遅延型皮膚反応と関係しており、IgE抗体の低い症例の中にIFN- γ 産生能の高い症例がある事を示した。

以上よりIFN- γ は気管支喘息のなかでも、非アトピー型で、IgE抗体の関与が少なく、リンパ球の活性化の認められる重症喘息の病態に深く関与する可能性が示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、臨床アレルギー領域におけるサイトカインの意義について研究したものであるが、非即時型アレルギー反応を中心とし、IgG1抗体が高値を示す気管支喘息の病態にIFN- γ が関与している可能性を示唆したものである。これは、重要な知見を得たものと

して、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。